



『山西文学・1981』短篇小説集

# 中国農村百景 II

小林 栄編・訳

現代中国農村の生き生きとした  
姿を伝える中国小説の翻訳版!!  
新生中国の民衆生活を余すところ  
なく伝える待望の翻訳第2弾

〈訳者紹介〉

小林 栄 (こばやし しかえ)

1926年 長野市に生まれる。

1943年 長野商業学校卒業。

1966年よりNHK中国語ラジオ講座・テレビ講座を中心として独学で中国語を勉強。

現在 長野県埴科郡坂城町株式会社都筑製作所勤務。

訳書 馬烽著『私の最初の上司』(長野市山崎書店)  
「山西文学」短篇小説集『中国農村百景』

(銀河書房)

現住所 長野市早苗町81-4

☎0262 (32) 8031

---

中国農村百景 II

定価 1,500 円

1983年2月12日 発行

著 者 小 林 栄

発行所 (株) 銀 河 書 房

長野市稲葉上千田143-1

いなばビル

☎0262 (27) 0497・8

印刷／ネオ・プリント企業組合

製本／株式会社 渋谷文泉閣

---

©1983 S. KOBAYASHI 落丁・乱丁本はおとりかえ致します。

# 中國農村百景 II

『山西文学・1981』短篇小説集

小林 栄編・訳

銀河書房



は し が き

去年三月、『中国農村百景・「山西文学」短篇小説集』を翻訳・出版いたしましたところ、各方面からご好評をいただき、特に中国の文芸雑誌『山西文学』では本年七月号に約三ページにわたって、私の翻訳書を取りあげて紹介してくれました。またぜひ続編を出版して、その後の中国の農村の動きを書いた小説を掲載してくれという声も多く、それに力を得まして、今回は同じ『汾水』(一九八二年より『山西文学』と改題された、中国山西省太原市で発行されている月刊文芸雑誌)の、一九八一年に発行された一二冊の中から、中国農村の姿をつかみ得て、しかもおもしろい作品、作者も山西省文学界の大御所と言われる馬烽先生マーフォンから、農業をしながら作品を書いてる業余作家・三十一歳の青年・李海清君リーハイチンと、多彩な作家の書いた作品八編を選んで翻訳して、『中国農村百景(Ⅱ)』として出版することにいたしました。

これらの作品を読むことにより、中国農村の動いている姿、営々として働いている中国農民の生活、文化大革命が四人組打倒で終りをづけ、一九七九年頃から従来二〇年近く続いた集団労働方式を捨てて、各戸生産責任請負制へと移りつつある農

村の底辺の動きを少しでも理解していただければ、この上ない幸せです。

ここで中国の行政組織について若干ふれておきます。中国農村では、行政・農業・工業・商業・教育のすべてが一本化した組織で行われています。それを系統的に示しますと、「中央——省——県——人民公社——生産大隊——生産隊」となっていて、その中心は人民公社で、平均五〇〇〇戸ぐらいで組織されております。生産大隊が約二〇〇戸〜五〇〇戸、生産隊が二、三〇戸ぐらいの規模のようです。従来は生産隊が一番末端の組織で、隊長を中心に集団労働をしていたのですが、現在はほとんど各戸生産責任請負制となり（一部には四、五戸の班での請負もあります）、一定の生産高を生産大隊に納めると、それ以上は自由な処分が認められるようになっております。

省から人民公社までは委員会組織になっており、日本という委員長は、委員会書記という名前で呼ばれています。生産大隊では大隊長よりも、むしろ中国共産党支部書記が大きな力を持っているようで、生産隊では生産隊長が全体をまとめております。「包産到戸」中国では各戸生産責任請負制をこう呼んでいます。これが取り入れられて農業生産は大きく向上したようですが、まだ流動的で、いろいろ問題が多いようです。また古い封建的な考え方や風習も残っており、これを改めて行くこ

とも大変時間のかかることでしょう。

これらの問題は、この八編の作品の中から読者の皆さんが汲みとってください。  
皆さんのご指導、ご批判をお待ちしております。

一九八三年一月

訳者 小林 栄

中国農村百景Ⅱ・もくじ

はしがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

水運び 崔ツオイ 巍ウエイ・ 9

白い西瓜 韓ヘン 石山ヒーヒヤン・ 43

いばらの道 張チャン 文徳ウエント・ 79

仕返し 潘パン 保安パオアン・ 119

盗み 張チャン 旺模ワンモ・ 143

山村のお医者さん 馬<sup>マ</sup> 烽<sup>フオン</sup>・167

ところてんの店で 焦<sup>ジャオ</sup> 祖堯<sup>ツウヤオ</sup>・225

かえるの鳴き声 李<sup>リ</sup> 海清<sup>ハイチン</sup>・255

あとがき……………・270

挿絵 『汾水』より



# 水運び

崔<sup>ツオイ</sup>

巍<sup>ウエイ</sup>

## 著者略歴

崔巍<sup>ツオイウエイ</sup>は一九四六年生れ。一九七〇年に山西大学国文科を卒業し、現在は山西省東南文学連合会で仕事をしています。一九七二年に創作活動を始め、六、七編の短編小説を発表した後、長編小説『愛にくしみ』を一九八〇年に出版しています。三十六歳の新進作家です。

〈本編は原文を下段に掲載しました〉

チャンワシヤン  
張万祥は、みぞおちの痛みがまたおきて、一晚中、眠ることさえできなかった……。

空が白みかけた頃、みぞおちを抑えてまどろみ始めたが、急に、隣の福貴フクキの母親が金切り声をあげて、どなっているのが聞えてきた。

「万祥、万祥……ゆうべ、わたしの家の水がめがまた底をついている、と言ったじゃないか。どうしてまだ水運びに行かないんだね」

ワシヤン  
万祥は起きあがろうとした。

オオ！ そうだ。ゆうべ、ちょうどみぞおちが痛くてオンドルの上をころげまわっているとき、福貴フクキが塀越しに水を運びに行くように指図していたっけ。その時は、じいさんは実際に腰を延ばすこともできずに、おだやかな言葉で、明日朝早く運びに行くからとたのむより仕方なく、かみさんもそれ以上無理を言わなかった。今かみさんの火のつくような催促を聞いて、すぐ起きあがらね

---

張万祥的心口痛病又犯了，整整一夜连眼皮都没合……

天快亮时，他刚捂着心窝口打了个盹儿，忽听隔壁福贵妈捏尖嗓子吆喝道：“万祥、万祥……昨晚就告你说俺家水瓮底又朝天了，怎么还不挑水呀！”

张万祥想起来了。噢！是的，昨晚他正心窝口疼得满炕打滚，福贵是隔着院墙指派过他去挑水。当时他实在直不起腰，只好软语央告今天一早去挑水，福贵妈这才作罢。现在听了福贵妈又喊魂似地催他去挑

ばならなかった。  
アア、駄目だ。身体を起こそうとすると、みぞおちが



水、只好赶紧往起爬。

啊，糟糕！刚一翻身，心窝口又是一阵剧烈地绞疼，硬挣扎着坐起身子，额头早又冒出冷汗。伸手去取衣服，手还直打哆嗦呢！他本想告诉福贵妈今早也难出门，话到嘴边又咽回去了。他不敢回嘴，一回嘴福贵妈肯定会不问青红皂白抢白他：“你病了我就不用吃水了？嗯？”唉！这女人不仅有一副刀子心肠，还有一张刀子嘴哩！如果你要再分辩，她就会使出治他的杀手锏：“那你给我还钱吧，还那五十元钱；有

また激しい、しぼるような痛みにおそわれた。無理に頑張って身体を起こして座ったが、ひたいには、すでに冷や汗さえ出てきた。手をのばして洋服を取ったが、手もやっぱり震えているではないか。

じいさんは、隣のかみさんに今朝も家を出られないと話そうとしたが、口の先まで出なかったが、飲み下してしまった。口答えしようとしなかったのは、口答えしようものなら、かみさんは言い訳など聞こうとせず、言いかえすにちがいない。

「お前さん病気なら、わたしは水飲まんでいろというんかね。エエ？」

アア、あのかみさんは、刃物のような人情なしの氣持ちを持っているだけでなく、刃物のような鋭い口を持っているからな。もし、なおい訳を言おうものなら、殺し文句を使うであろう。

「それならお金返して下さいよ、あの五〇元のお金をね。」

---

这一笔钱，不愁顾个挑水的……”

张万祥料定福贵妈还在院墙头爬着，拉长白胖胖的冬瓜脸等他回话，忙边穿衣服边回答：“他大婶，我这就去，都怪我少心忘肝的……”

隔壁传来福贵妈的冷笑声：“我说哩，你总不能让我红着锅烧饭嘛！”

福贵妈息了怒气转身回家了。张万祥则落下一串伤心泪。唉，人穷志短，有什么法子呢？

张万祥捂着心窝口下了地，只觉得两腿发软，浑

そのお金あるんなら、水運びのことは心配しないでいいがね……」

万祥は、かみさんが庭の塀のすみにつかまって、白く太った冬瓜のような顔で、返事を待っているだろうと決めこんで、あわてて洋服を着ながら返事をした。

「奥さん、俺すぐ行くから、気がまわらずに忘れっぽいと責めなさんな……」

塀越しに、かみさんの冷やかな笑い声がした。

「言いたいのはね、ご飯作れないようにしないでおいとおくれと言うことだよ」

かみさんは怒りをおさめて、振り向いて家に入っていた。じいさんは悲しみの涙を流していた。アア、貧乏すれば良い考えも浮かばないが、何か方法はないものかな？

万祥はみぞおちを抑えて地面におりたが、両足がふらふらして、全身にわずかの気力さえなかった。

---

身连四两力气也没有。想想挑水路上爬坡翻岭，尤其是牛蹄坳那道大陡坡，不禁不寒而慄了。平时爬那道坡还得甩八瓣儿汗，今日心窝口疼得连腰也伸不直，能上了那道坡吗？

人说养儿防老，积谷防饥。张万祥感叹道：唉，要是儿子拴成在家就好了……

今年队上总算彻底踢开大寨那些坑人“套套”，允许个人出外包工搞副业。打春暖花开季节，拴成就和人搭伴到外地放蜂去了。如今已走了多半年。前不

水を運んで坂を登り山を越える、その中でも牛蹄ニツタイのやせ地のあの大きな坂のことを考えると、寒気がして震えがとまらなかった。

普段でさえ、あの坂を登るのに大汗をかかねばならぬのに、今日はみぞおちが痛くて腰さえ真っ直ぐに伸ばし切れないで、どうしてあの坂が登り切れるだろうか？子供を育てて年取った時の用意をし、穀物を蓄えて飢えの時の用意をすると言われている。じいさんはなぜ悲しんでいた。アア、もし息子の栓ヒツンチョン成ヒツンチョンさえ家にいてくれたらよかったのになあ……。

今年は生産隊では、あの「大寨クァァツァイに学べ」と言って人を苦しめてきた連中を、徹底的にけとばして、個人が外に出て請け負いで副業をすることを許可することにした。

春の暖かく花の咲く季節をむかえると、栓ヒツンチョン成ヒツンチョンは人と仲間を組んで、よその地方へ蜂の放し飼いに行った。今日でもう半年余りも出かけたままである。少し前に便りを

---

久捎信说就要回来，可还没有到家。远水不解近渴。

今日这可叫他怎么好？

张万祥独自思忖一阵，忙爬到他家水瓮前，一看里面还能刮起一盆水，好叫他高兴。福贵妈刚才不是说：“你总不能让我红着锅烧饭”？那就先把这盆水给她送过去。啊，真是天无绝人之路，就这么办吧！

想好了主意，张万祥觉得心窝口也不那么疼了，便操起水瓮上挂的那个葫芦瓢往盆里舀水。一瓢，二瓢，三瓢……很快就舀满一盆水。然后端起盆，弯着

よこして、じきに帰ってくると言ってきたが、まだ家には帰ってきていない。遠くにいるのでは近くの用はたせないが、今日はどうしたら良いだろうか。

じいさんは一人でしばらく考えていたが、あわてて家の水がめの前に歩いて行って、見ると中には手桶に一杯ぐらいの水があつて、大いに喜ばせた。かみさんはさつき、

「ご飯を作れないようにはしないでくれ」

と言つたではないか。だから先にこの桶の水をとどけておこう。オオ、本当に窮すれば通ずるというもののだ。そうしよう！

良い考えを思いつくと、じいさんはみぞおちがそれほど痛く感じなくなり、水がめの上にかけてあるひしゃくを使って、手桶に水を汲み始め、一回・二回・三回……やがて桶一杯に汲んだ。それから桶をかかえて腰を曲げ、気持ちを下ち着けて隣のかみさんの所へ届けにいった。

---

腰，憋足气给福贵妈送过去。

福贵妈听见脚步声赶出院子，见张万祥端过一盆水，好生奇怪：“你这是咋啦？”张万祥忙低声下气说：“他大婶，我昨晚心窝口疼了一夜，实在没力气挑水去，这点水你先将就吃一顿……”

福贵妈听了，惊天怪地叫起来：“唉呀呀，这一盆水还不够我洗脸梳头用哩！”张万祥啜嚅着：“他大婶，好你哩……拴成说不定今日就回来了，他一回来就让你挑满水瓮……”福贵妈不依，白胖胖的冬